

放牧を取り入れた一産取り肥育技術マニュアル（黒毛和種,日本短角種）

（畜試 肉牛部）

1. 背景とねらい

牛肉の自由化に対処し、低コスト生産が緊要となっている。現在、県内で生産される雌子牛の5～6割程度は未経産で肥育屠殺されていると推定され、雌資源が有効活用されていない。このため牛肉の資源拡大と肉用牛所得の向上をねらい夏山、冬里飼育による放牧経験牛の経産（1～3産）肥育試験成績から1産取り肥育技術マニュアルを策定したので普及奨励事項に供する。

2. 技術の内容

1) 肥育技術マニュアル

(1) 黒毛和種

肥育時期		舎飼		放牧		舎飼	
		導入	種付け	肥育開始	分娩	離乳	出荷
生後月齢(ヵ月)		9	15	19	24.5	27.5	32
目標体重(kg)		220	315	340	500 (分娩後460)	495	580
期待増体重 D G (kg)		0.52	0.21	0.96	0.38	0.62	
飼料 給与 (kg)	生草	—	飽食(35)	—	—	—	—
	稲ワラ	—	—	2.5	3.0	3.0	2.0
	乾草	4.5	—	—	—	—	—
	濃厚飼料	2.0	—	7.0	8.0	8.5	8.0

(2) 日本短角種

肥育時期		舎飼		放牧		舎飼		出荷
		導入		種付け	肥育開始	分娩	離乳	
生後月齡(ヵ月)		8	14	15	18	24.5	26.5	29.5
目標体重(kg)		560						
		220	330	380	(分娩後510)		525	615
期待増体重								
D G (kg)		0.61	0.42		0.91		0.25	0.99
飼料給与 (kg)	生草	—	飽食(35)		—	—	—	—
	稲ワラ	—	—		3.5	3.5	3.5	2.0
	乾草	5.0	—		—	—	—	—
	濃厚飼料	2.0	—		7.0	8.5	8.0	10.0

2) 経済性の試算

黒毛和種、日本短角種とも年間当りの所得で比較すると1産取りは未経産の

2.4～2.5倍と試算される。

3. 普及上の留意点

- 1) 分娩事故防止には、生時体重の小さい種雄牛を交配する。
- 2) 離乳前後は、濃厚飼料を調節して泌乳量を減少させる。
- 3) 増体系の牛をベースとしたので、資質系では、出荷月齢の遅延が考えられる。
- 4) 3産した経産牛は、肉色が濃く、体脂肪もやや黄色で、枝肉評価を低くする。
- 5) 黒毛和種の舎飼体系における1産取り肥育技術指標及び実態調査に基づく飼育体系経済試算は、三重県農業技術センター畜産部で公表。

4. 関連課題名

日本短角種経産牛の産肉性(昭和62年度～昭和63年度)

黒毛和種経産牛の産肉性(昭和63年度～平成元年度)

5. 参考資料

岩手県畜産試験場試験成績概要書(昭和63年度)

日本飼養標準 肉用牛(中央畜産会)

肉用牛飼養技術の手引・肥育編(全国肉用牛協会)